■ RV3000の主な仕様

モデル名		RV3000 A2	RV3000 A3
筐体タイプ		5Uラックマウントタイプ	2Uラックマウントタイプ
プロセッサー［コア数］		第3世代インテル® Xeon® スケーラブル・プロセッサー［最大28コア］	第5世代インテル® Xeon® スケーラブル・プロセッサー［最大48コア］
プロセッサー数		最小1*1 / 最大4	最小1/最大2
メモリー最大容量		3.0TiB	4.0TiB
オンボードLAN		1Gb 2ポート ネットワークアダプター	–
PCI Expressボード		Ethernet 1Gb 2ポート ネットワーク アダプター またはEthernet 1Gb 4ポート ネットワーク アダプター または Ethernet 10Gb 2ポート ネットワーク アダプター または 16Gb 1または2ポート ファイバチャネル アダプター または 32Gb 2ポート ファイバチャネル アダプター	Ethernet 1Gb 4ポート ネットワーク アダプター または Ethernet 10Gb 2ポート ネットワーク アダプター または 32Gb 2ポート ファイバチャネル アダプター
	スロット数	最大16	最大8
OCPカード		–	Ethernet 1Gb 4ポート ネットワーク アダプター または Ethernet 10Gb 2ポート ネットワーク アダプター
	スロット数	–	最大2
外形寸法（W×D×H）		44.5×88.0×22.0cm	44.8×72.7×8.75cm
質量		最大52.8kg	最大33.0kg
電源		200-240V（50/60Hz）、最大4（N+1冗長構成またはN+N冗長構成）	200-240V（50/60Hz）、2台（冗長構成）
省エネ法に基づく表示（2021年度基準）	区分	3	2
	エネルギー消費効率*2	18.1	33.1
サポートOS		Red Hat Enterprise Linux / VMware ESXi™	Red Hat Enterprise Linux
ハードウェア保守サービス期限		5年 / 7年*3 / 10年*3	5年 / 7年*3 / 10年*3

*1 構成上の制限があります。詳細は個別にお問い合わせください。
*2 エネルギー消費効率とは、中央演算処理装置、補助記憶装置および主記憶装置の消費電力あたりの性能を幾何平均して得られる数値です。
*3 環境仕様や構成など、「5年保守対応モデル」に加え、使用上の制限があります。詳細は個別にお問い合わせください。

・装置容量表記は、1KiB＝1,024バイト、1MiB＝$1{,}024^2$バイト、1GiB＝$1{,}024^3$バイト、1TiB＝$1{,}024^4$バイトとして表現しています。
・使用可能なメモリー容量は、OSや機器の構成・設定により異なります。

※詳細仕様については下記「製品情報サイト」をご覧ください。
1U：44.45mm

※本製品は、高調波電流規格：JIS C 61000-3-2適合品です。
※本製品は、VCCI基準（一般財団法人VCCI協会基準）クラスA情報技術装置です。本製品を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には、使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。
※本製品は日本国内仕様であり、当社では海外での保守サービスおよび技術サポートは行っておりません。

・Ethernetは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。 ・インテル、IntelおよびXeonは、Intel Corporation またはその子会社の商標です。 ・Microsoft、Windows、Windows Serverは、マイクロソフト 企業グループの商標です。・Red Hat, and Red Hat Enterprise Linux are registered trademarks of Red Hat, Inc. in the United States and other countries. Linux® is the registered trademark of Linus Torvalds in the U.S. and other countries. ・VMware is a registered trademark or trademark of Broadcom Inc. in the United States and / or other jurisdictions. ・その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

JMI-0231　MS CM009

安全に関するご注意	ご使用の前に必ず製品マニュアルなどの注意事項をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

●カタログに記載の内容・仕様は、製品の改良などのため予告なく変更することがあります。また、製品写真は出荷時のものと異なる場合があります。
●本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法の規制ならびに米国の輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。
なお、ご不明な場合は、当社担当営業にお問い合わせください。

製品に関する詳細・お問い合わせは下記へ

■ 製品情報サイト
https://www.hitachi.co.jp/rv3000/

■ インターネットでのお問い合わせ
https://www.hitachi.co.jp/rv3000/inq/

■ 電話でのお問い合わせは **HCAセンター**へ
0120-2580-12 受付時間 9:00～12:00、13:00～17:00（土・日・祝日・当社休日を除く）

株式会社 日立製作所

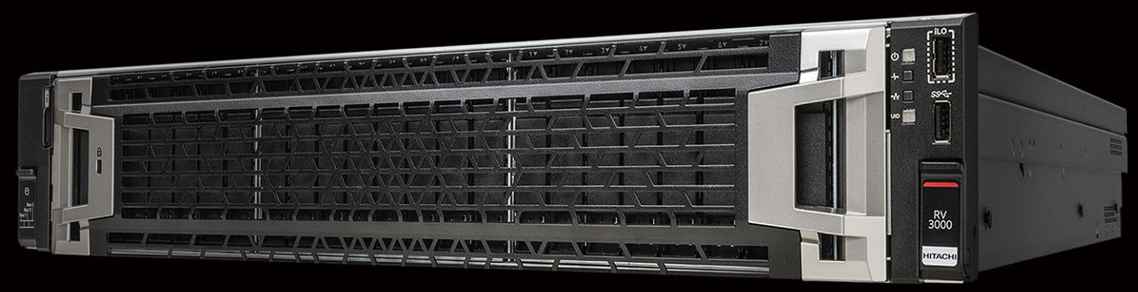
CD-008R　2024.9

©Hitachi Vantara, Ltd. 2024. All rights reserved.

日立高信頼サーバ
RV3000

HITACHI
Inspire the Next

ビジネスに新たな価値を生む、高信頼サーバ。



ビジネスの急速な進化に即応。そして続く、飽くなき信頼性の追求。

今、世界的なデジタライゼーションの潮流のなかで、あらゆるモノのつながりと最先端の技術により、企業は新たな価値を生み出しています。その原動力のひとつである積極的なオープン化の動きが、止まることの許されないビジネス領域でも加速しています。
RV3000は、これからの基幹系業務を高信頼に支えるプラットフォーム。
日立が培ってきた多彩な機能、そして、多くのベンダーとの深い協力体制により、オープン化の時代にもシステムの安定稼働を実現します。
また、最長10年のきめ細かいサポートでお客さまにさらなる安全と安心を提供。
磨きあげた信頼性で、ミッションクリティカルなビジネスの成長を守り続けます。

RV3000 A3

RV3000 A2

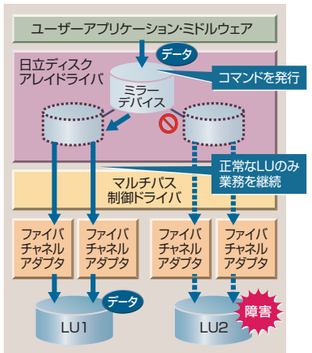
拡張性と信頼性に優れたプラットフォーム

A3モデルでは最新のインテル® Xeon® スケーラブル・プロセッサー・ファミリーを最大で2個搭載可能。最大32個のメモリースロットも用意し、大規模データベースやリアルタイム分析などの用途に対応します。また、最大でPCIeスロット×8とOCPスロット×2を備え、NICやFCの冗長構成が可能。日立独自のOS信頼性強化機能と組み合わせることにより、OS層の高信頼化を継続してサポートしています。万が一のシステム障害時にも高速系切り替え機能により、障害発生時のダウンタイムを最小限にし、OSハングアップ時のログ機能強化による障害解析性向上により、高信頼なシステムを実現します。

OCP：Open Compute Project　NIC：Network Interface Card　FC：Fibre Channel

高信頼のストレージ連携で業務継続を支援

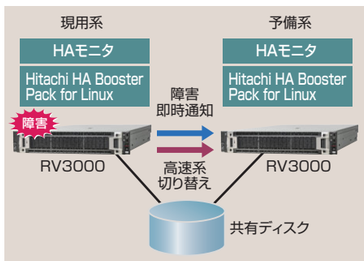
日立ディスクアレイシステムをご利用の場合、日立製のファイバチャネルアダプタ、マルチパス制御ドライバ、専用ディスクアレイドライバにより、基幹系業務で要求される高信頼機能を提供。例えば、2つのLU間におけるミラーリング機能により、一方のLUに障害が発生した場合でも、正常なLUでの業務継続が可能です。また、ファイバチャネルを複数のパスで接続することで、I/O性能の向上やパス障害時のパス交代・閉塞を行います。そのほか、タイムアウト設定や障害しきい値管理などの機能を提供し、障害発生時の業務継続を支援します。



LU：Logical Unit

障害発生時のダウンタイムを極小化

RV3000および高可用性ソフトウェア「HAモニタ」と「Hitachi HA Booster Pack for Linux」の連携により、高速ホットスタンバイ機能を提供。現用系システムの障害発生と同期し、予備系システムへの即時切り替え通知を行うとともに、現用系システムから予備系システムへ共有ディスクの高速切り替えを実現します。これによって障害発生時のダウンタイムを極限まで短縮し、業務損失を最小限に抑えます。さらに不揮発性メモリへの障害情報保存機能を備え、障害発生時には迅速な原因究明を支援します。



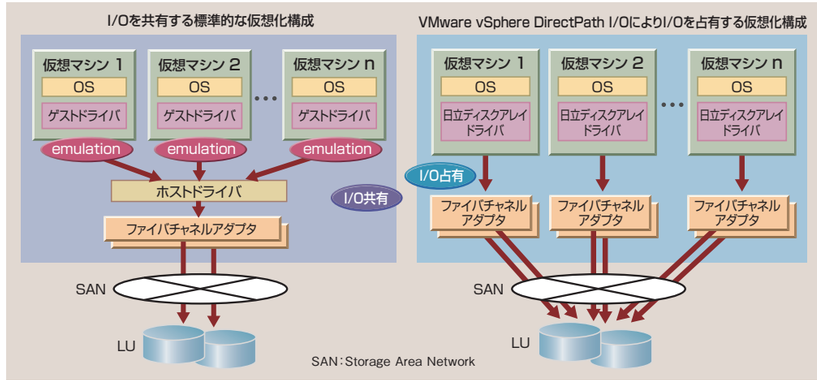
高信頼のVMware vSphere®環境を、基幹系システムでも実現

日立とBroadcom社との協業により、堅牢性・可用性とともにオープン化が求められるミッションクリティカルな基幹系業務向けに、vSphere®環境を日立独自の機能で高信頼化することで、ライフサイクルの長い基幹系システムでもVMware by Broadcom製品を安定的に使用可能となりました。（本機能はA2モデルのみサポートしています。）

業務の重要度や負荷に応じ、仮想マシンの安定稼働を実現

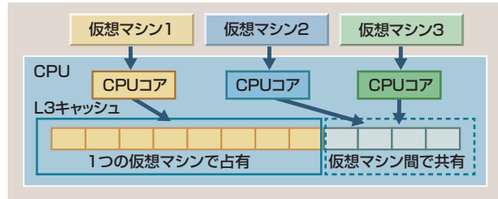
I/O仮想化のオーバーヘッドを低減。さらに障害影響の伝搬を排除

重要仮想マシンにI/Oを占有割り当てする機能「VMware vSphere® DirectPath I/O」により、I/O仮想化のオーバーヘッドを低減。I/O処理性能の向上と安定化を実現します。さらに、一部のI/Oデバイスに障害が発生した際には、I/Oデバイス閉塞機能により障害I/Oを切り離すことで仮想マシンへの障害影響の伝搬を排除し、システムダウンを回避できます。（本機能はA2モデルのみサポートしています。）



CPU L3キャッシュを占有割り当て。仮想マシンのパフォーマンスを確保

CPU L3キャッシュ占有機能によって、特定のCPUコア（仮想マシン）に対してL3キャッシュの容量を占有に割り当て、処理性能を安定化させます。業務の性能安定性が必要となる仮想マシンにこの機能を適用することで、他の仮想マシンからの影響を受けることなく処理性能の安定化が実現でき、業務パフォーマンスを確保できます。（本機能はA2モデルのみサポートしています。）



障害からの迅速な復旧を支援する、充実のサポート

お客さまシステムの稼働中、常時対応が可能な日立サポート360

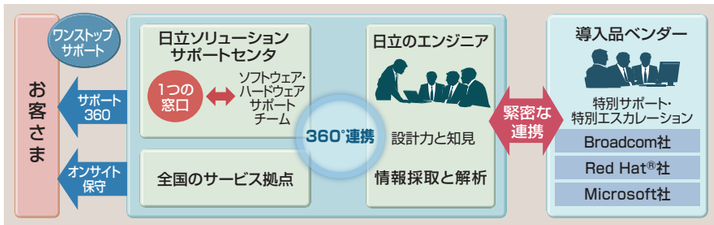
RV3000はLinux®の信頼性をより高めるLinux環境強化サポートオプションなど、高信頼システムの実現を支援するサポート360のサービスに対応します。また、お客さまのシステム規模や重要度に応じて3つのサービスグレードを用意し、各グレードで、深夜休日を問わず稼働し続けるシステム向けの「24時間週7日対応」と、平日日中に稼働するシステム向けの「平日8時～19時対応」の2つの対応時間を選択できます。システム環境に合わせて、グレード、対応時間、オプションを自由に組み合わせられます。

サービスグレード	サービス内容
スーパープレミアム	お客さまシステムを把握したアカウントチームが中心になって、基幹システムの運用をしっかりサポート。
プレミアム	緊急障害窓口と特別サポートチームを編成し、もしもの障害発生時も的確かつ迅速に復旧を支援。
スタンダード	お客さまの日々の保守業務を支える基本となるサービス。

詳しくは、下記URL、または当社担当営業までお問い合わせください。
https://www.hitachi.co.jp/soft/support360/

導入品ベンダーとの特別サポート体制で、お客さまの課題をいち早く解決

日立は、これまで培ってきた設計力と知見を駆使し、オープン環境におけるお客さまの課題をいち早く解決します。さらに、各導入品ベンダーとの特別サポート体制により、ベンダー製品のソースコードに日立もアクセス可能なうえ、日立のエンジニアがベンダーに駐在し、特別エスカレーション体制を整備。日立の総合力、そしてベンダーとの緊密な連携により、迅速なトラブルシュートを実現します。

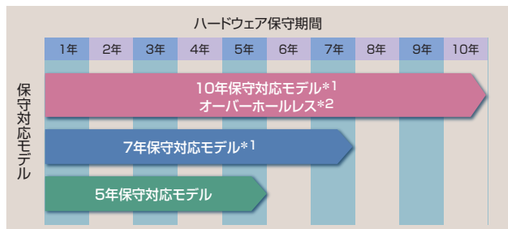


ハードウェアを最長10年保守。併せて、ソフトウェアも長期サポート

最長10年におよぶハードウェア保守サービスで、更改や検証にかかるコストを削減し、システムライフサイクルにわたるTCOを最適化します。もちろん、高度障害解析や問い合わせ対応なども最長10年継続できます。A2、A3の10年保守対応モデルはオーバーホールレスで無停止長期稼働可能です。さらに、RV3000に搭載するプラットフォームソフトウェアについては、ベンダーの標準ライフサイクルを超える長期サポートを提供可能です。万が一の重要障害発生時にもベンダー各社と連携した原因究明、対策版の提供を行い、お客さまのシステムライフサイクルに合わせビジネスを支え続けます。

TCO：Total Cost of Ownership

※ソフトウェア製品のサポート期間は製品ごとに異なります。サポート期間については個別にお問い合わせください。



*1 環境仕様や構成など、「5年保守対応モデル」に加え、使用上の制限があります。詳細は個別にお問い合わせください。
*2 A2モデルのみ稼働時交換可能な部品（電源モジュール、ファン）を7年目に交換実施します。